

平成25年度 21世紀土地改良区創造運動大賞（地域コミュニティ部門賞）

水土里ネット網走川

～おおぞらと美しい幌（むら）のもとで『水と土と里を繋ぎ地域を守る』～

1. 水土里ネットの概要

受益面積：2,422ha、組合員数：223名、役員7名、職員：常勤5名、非常勤4名

2. 運動の背景

当地区では、後継者不足による農家数の減少や高齢化の進行等に伴う施設管理体制の脆弱化に加えて、水田の転作率は平成元年度の53%から現在では80%を超え、転作田における畑作・野菜づくりへの水利用要望への対応や、老朽化した既存施設の改修が急務となっていた。このことから、地域農業のあり方、農業農村整備事業の推進方向、事業推進体制の構築に伴う管理区域の検討など、今後の水土里ネットの役割を明確にし、新たな水土里ネットの運営に向け一歩踏み出すこととした。

3. 運動の基本理念、目標

スローガン：地域の財産『水』『土』『里』を良好な状態で次世代へ継承する

（内部運動）～自己確認・自己変革の取り組み～

○水土里ネット自身が、「水」「土」「里」を守り育む組織としての役割を再認識

○地域の要請に対応し水土里ネットに期待される新たな役割・機能を担うための共通認識を醸成

（外部運動）～道民・国民への理解の醸成～

○農業・農村の多面的機能や農地・農業用水等の地域資源保全の重要性について、地域住民等の理解を醸成

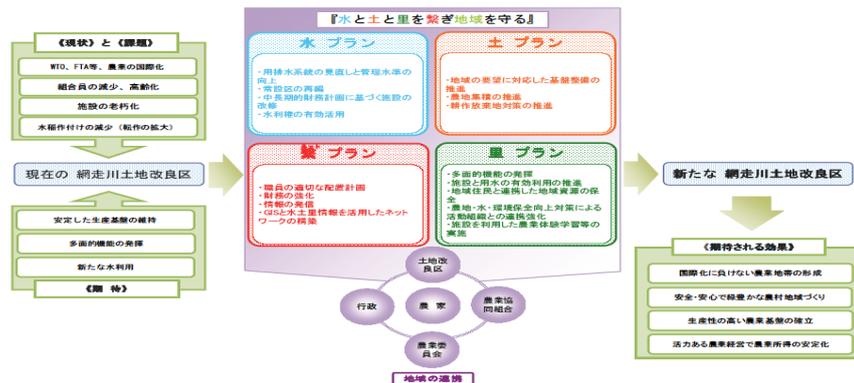
○水土里ネットの果たしてきた役割、これから果たしていく新たな役割・機能について、地域住民等の理解を醸成（新たな水土里ネットの創造）

○地域が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織として発展

○地域との多様な連携のもとに農地・農業用水等の地域資源の維持・保全を積極的に担っていく組織として発展

◇平成22年には、「水土里ネット網走川事業運営改革基本計画」を策定し、運動の効果的な推進を図っている。

網走川土地改良区 事業運営改革基本計画の全体フロー図



4. 21創造運動の活動

- ・担い手育成に対応した基盤整備の推進
- ・水土里の杜づくり
～森は水土里のパートナー～
- ・生態系保全活動
- ・日本最東端の田んぼの学校
- ・温水ため池を核とした農業振興課活動

5. 運動全体の成果と今後の展望

農家戸数が大きく減少していく中で、地域住民と連携した農業水利施設の管理や農業・農村の多面的機能の発揮に向けた活動が創造運動を通じて構築されてきており、農業者のみならず非農業者にも農地・農業用水、農業水利施設等を地域の財産として保全する重要性に理解が深まってきている。

また、自治体や関係機関・団体等との連携においても、従来の農業水利施設の管理組織としての関わりに加え、土地改良区の新たな役割の発揮に向け、有機的な関係が構築されている。

転作率80%以上という環境の下で、畑地かんがい事業に積極的に展開するなど、具体的な取り組みを行っている。

「おおぞらと美しい幌（むら）のもとで『水と土と里を繋ぎ地域を守る』」ことを基本理念に、役職員においては、地域住民の要請、時代の要請に応えるための自己確認、自己改革に取り組むとともに、地域住民・地域社会と連携した先駆的な農業振興活動、多様な広報の展開を柱に、この運動を展開していくこととしている。



イベントには毎年50名以上が参加 カヌー遊びなど、ため池を地域住民へ開放

担い手育成に対応した基盤整備の推進（国営かんがい排水事業の実施など）



国営かんぱい「美女地区」 工事施行写真

水土里の杜づくり ～杜は水土里のパートナー



イベントには毎年50名以上が参加



カラ松の植樹は今では2040本以上



美幌川頭首工での生態系調査



タマネギ、イモ、人参などの収穫体験

生態系保全活動



ホタルの生息調査の様子



ザリガニ駆除を継続的に実施

日本最東端の田んぼの学校



田植え体験の様子



用水路にて いかだ下り体験



収穫祭では脱穀体験も実施



収穫後は、お餅をついてみんなで味わった

温水ため池を核とした農業振興活動



ため池全景



町内の中学生による生態系調査



カヌー遊びなど、地域住民へ開放



自衛隊の訓練にため池を開放



美幌博物館に温水ため池のジオラマや生息する昆虫等を展示

